

# 保健だより 6 月号

令和4年 6 月 17 日

人吉高校定時制

保健室 増田

皆さん、最近ますます暑くなってきましたね。体調は変わりないですか？梅雨の時期にも入り、湿気も多いこの時期は体調を崩しやすい時期となっています。水分と塩分をこまめにとって熱中症予防を1人1人が心がけましょう。

さて、5月の保健だよりでもお知らせしたように6月は健康診断のシーズンです。6月後半に行われる健康診断について再度今月号ではお知らせしたいと思います。



## 【健康診断のお知らせ】

日程	健診の項目	協力機関
6/23(木) 18:30	歯科健診	内山クリニック 内山 順誠 先生
6/27(月) 17:40	耳鼻科健診	豊永耳鼻咽喉科 友永 和宏 先生

★秀麗会総会でもお伝えさせて頂きましたが、6/2(木)の眼科健診だけは医師の都合により健診時間が 16:30 からとなっております。

## エピソード②「2.5人称」

皆さん「1人称(私)」「2人称(あなた)」「3人称(それ以外)」という言葉を知っていますか？

ノンフィクション作家の柳田邦男氏は、病院での医療スタッフと患者さんとの関係性を「1人称の視点」「2人称の視点」「3人称の視点」という言葉で表現しています。

「1人称の視点」は患者の視点、「2人称の視点」は家族の視点、「3人称の視点」は医師の視点という意味をそれぞれ持ちます。医師は患者に対して自分の家族に寄り添うような温かさや、専門家としての知識と能力を兼ね備えた視点を持った「2.5人称の視点」を持った方がよいと柳田氏は提唱しました。また、この「2.5人称」は家族の視点では近すぎるとされ、3人称の視点では遠いとも柳田氏は著書の中で述べています。

看護師は患者さんの気持ちに寄り添いますが、看護の対象とある一定の距離を取ることを働きながら学んでいきます。その距離感は一それぞれ違います。距離が近すぎると双方が辛くなりますし、遠すぎると患者さんは寂しい思いをすることがあります。柳田氏が唱えた「2.5人称」は医療の現場ではとても重要とされています。

これらのことは医療の現場だけではなく、私たちの生活にも役立つと言われていきます。私たちは誰かと関わらずに生活していくことは出来ません。「自分」と「誰か」との距離の取り方はとても難しいですね。学校生活でも社会でも悩みの多くは人間関係と言われていきます。その「誰か」との距離感や関係性は様々な条件で絶えず変化していきます。きっと関係性が良好な時ばかりではないかと思えます。少しギクシャクしてしまった相手との関係の修復には仲良くなる時よりも時間がかかります。仲直りする方法や相手とのいい距離感を日常生活の中で見つけられるといいですね。